

## 第5学年国語科学習指導案

日 時 平成22年10月5日(火)  
 児 童 5年A組 男子16名 女子14名 計30名  
 5年B組 男子16名 女子13名 計29名  
 授業者 5年A組 小野 秀 幸  
 5年B組 遠藤 伸 枝

### 1 単元名 伝え合って考えよう

中核教材 人と「もの」との付き合い方(光村図書 五年上)

### 2 単元の指導目標

- 人と「もの」とのかかわり方について調べたことを組み立てや工夫して発表したり、書いたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- 調べた内容や感想が、クラスの友達に分かりやすく伝わるように、組み立てを工夫して話すことができる。(話すこと・聞くこと イ)
- 発表者の考えと自分の考えを照らし合わせながら聞くことができる。(話すこと・聞くこと エ)
- 自分の考えと友達の考えを照らし合わせながら文章全体を組み立てることができる。(書くこと イ)
- 自分の体験や知識と自分が考えた意見とを区別して書くことができる。(書くこと ウ)
- 文や文章にはいろいろな構成があることを理解することができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ (キ)

### 3 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
満 お 足 お で む き ね る 状 況	○ごみ問題や人と「もの」とのかかわり方について関心をもち、進んで課題を決めて調べ、友達の発表をもとに更に考えを深めようとしている。	○自分の課題について調べた内容や感想が友達に分かるように、組み立てを工夫して話している。 ○友達の考えと自分の考えとの違いや共通点について、メモを取りながら友達の発表を聞いている。	○友達の発表をもとに深まった自分の考えや意見を整理し、意見文の構成表を書いている。 ○構成表をもとに、事実と感想・意見を区別した意見文を書いている。	○指示語や接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、使っている。

### 4 指導にあたって

#### (1) 児童について

児童は、昨年度までに「話すこと・聞くこと」に関わって、身近な話題への興味・関心を持ちながら事柄を順序立てて分かりやすく話したり、互いの考えを比べながら聞き合ったり、目的や相手に応じた話し方を工夫したりしてきた。

「書くこと」については、「調べたことを知らせよう」で、日常の中から課題を見つけて文章にしたり、「始め、中、終わり」の構成に注意して文章を書いたり、調べたこと、調べて分かったこと、考えたことなどを区別して書いたりしてきた。また、1学期は「調べたことを整理し

て書こう」の単元で調べて分かったことと考えたことを区別して、読み手に分かりやすく伝わるようなレポートの書き方を学習してきている。

日常においては、週末に日記に取り組みさせる機会を設けるようにしてきた。日記の内容は多岐にわたるが、どの児童もしたことだけでなく、自分の思いも入れながら少しずつ長い文章を書けるようになってきている。

これらの学習を通して、児童は分かりやすく伝えるための話し方や友達との考えと比べた聞き方が身に付いてきている。また、文章を書くときには、構成を考えて書こうとするようになってきている。

## (2) 単元について

本単元は、生活の中から見つけた課題について調べたことを交流し合うことで、相手の意図をとらえながら、その内容を聞き取ることと、交流により深まった自分の考えを事実と感想・意見に区別した意見文にまとめることをねらいとしている。

中核教材「人と『もの』との付き合い方」では、「ごみ問題」について調べた内容や感想を友達に分かりやすく伝えられるように、話の組み立ての工夫を学んでいく。また発表を聞く際には、発表者の考えと自分の考えとを照らし合わせ、その違いや共通点を明確にしながらか聞き力を育てることができる。そしてこれらの学習をもとに、自分の考えと他の考えとを対比しながら文章全体を組み立てること、自分の体験や知識と意見とを区別して書くことを学ぶことができる教材だと考える。

このように、「ごみ問題ってなあに」をきっかけに自分なりの課題をもって調べ、発表して交流し、意見文を書くことを通じて、自分の生活の中での「もの」との付き合い方を見直し、深めていけるものと考えられる。

## (3) 指導の手立て

導入では総合的な学習の時間との関連を図り、わらを活用した様々な物やその生活の様子について話し合っていく。そして、物を無駄にしない生活について考えさせたい。主な言語活動として、物を無駄にしない生活について考えた意見文を書き、家族に伝えることとしていきたい。

資料「ごみ問題ってなあに」では、江戸時代の生活やマラウイの人たちの暮らしの豊かさを理解させるとともに、自分たちの生活の問題点等に目を向けさせていく。そこで感じたことを交流し、自分なりの課題を決めさせていきたい。

課題について調べる際には、目的にあった適切な方法をとらせていく。調べる方法としては、アンケート調査、インタビュー活動、インターネットや図書資料検索などが考えられる。調べたことについては、ポスターセッションを通して交流していく。そのため、発表メモの作成の仕方と発表資料の表現方法について学ぶ時間をパワーアップタイムとして設定する。この学習をもとに、調べたことやそこから考えたことについては発表メモを作成し、それらを並べ替えながら聞き手によくわかるように話の組み立てを工夫させていく。また、発表を聞く際には聞き方メモを活用し、特に自分の考えとの共通点や相違点を考えて聞き、メモを取らせていく。このメモは意見文を書くときに使うことはあらかじめ知らせておく。

意見文を書く際には、構成が決まっていると文章が整理され、分かりやすくまとめることができる。そこで、パワーアップタイムを更に 1 時間設定し、意見文の構成の書き方を学んでいく。その際、文章構成を「調べようとしたきっかけ－自分が調べたこと－友達の発表と比べて－自分の意見」の 4 段落とし、それぞれの役割について指導していく。ここでは、発表会を通して深まった考えを書き表すことを目的とするため、発表会での聞き取りメモを十分に活用させたい。



	9 10	調べたことをもとに発表メモと発表資料を作成する。	話・聞) 発表メモと発表資料を作成し、発表会の準備を整えることができる。	①
	11	ポスターセッションをする。	話・聞) 調べた内容や感想が友達に分かるように、組み立てを工夫して話すことができる。 友達の考えとの違いや共通点について、メモをとりながら発表を聞くことができる。	① ②
四 次	12 (バ)	意見文を書く時の文章構成と構成表の作り方を学ぶ。(B組本時)	書) 意見文を書く時の文章構成を理解し、構成表を作ることができる。	③
	13	意見文を書くための構成表を作る。(A組本時)	書) 自分の考えを整理して、意見文を書くための構成表を作ることができる。	③
	14 15	意見文を書く。	書) 事実と感想・意見を区別した意見文を書くことができる。	④
	16	お互いの意見文を読み合っって相互評価し、学習のまとめとする。	書) 友達の意見文のよさを伝え合うことができる。	④



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発表と比べた内容を発表する。</li> <li>・必要なカード（付箋紙）を選ぶ。</li> </ul> <p>(2) 段落③を基に、段落④（自分の意見）を書く。</p> <p>4 構成表を読み合い、よさを学び合う。</p> <p>(1) 友達の構成表を読み合い、交流する。</p> <p>(2) 自分の構成表の見直しをする。</p>	全 個 個 個 個	<p>○はやく書き終えた児童に発表させ、どのように比べるとよいのかを確認する。</p> <p>○友達の考えとの共通点、相違点を記したカード（付箋紙）の中から、意見文を書く際に必要な内容がどれかを考えさせる。</p> <p>◎構成表を書き進められない児童には、モデルとなる構成表を参考にしたり、真似たりしてよいことを伝える。</p> <p>○ペアで読み合い、構成表をつくる時のポイントを基に交流する。</p> <p>○交流が終わった児童から、見直しを行わせる。</p>	<p><b>B</b></p> <p>意見文を書くときの文章構成をもとに、構成表を作ることができる。</p> <p><b>A と判断される例</b></p> <p>意見文を書くときの文章構成をもとに、全体の流れに合致するカード（付箋紙）で構成表を作ることができる。</p>
終末	5 本時の学習の振り返り 本時の学習の感想を学習シートにまとめる。	個	○学習を通して分かったことや考えたこと、次時への思いなどをまとめさせる。	
5分	6 次時の学習の確認	全	○次時は、本時をもとに意見文を書くことを確認する。	

④板書計画

<p>④ ・ ・ ・ 友達の発表を聞いて ・変わった考え ・改めて加わった考え</p> <p>最終的な自分の意見 ←</p>	④	③	②	①	段落	<p>伝え合って考えよう</p> <p>自分の考えを整理して構成表を作ろう</p>
	自分の意見	友達の発表と比べて	自分が調べたこと	調べようとしたきっかけ	文章構成	